

- * クリスマスとは何か。「私たちに救いをもたらすためにイエス・キリストが地上に送られてきたこと」と言える。いわば神の愛がイエス・キリストによって私たちにもたらされたのである。御子の降誕が無ければ神の愛は実現しなかった。クリスマスは神の愛の初めである。
- * この素晴らしい神の愛に応えるためには、神の愛はどういう愛かを知り、それを自分のものとして受け入れ、その喜びを人に伝えることが求められる。「愛する者たち。神がこれほどまでに私たちに愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。」(Iヨハネ4:11) 神の愛に応えるには、私たち自身が神の愛を表して、お互いに愛し合うことが必要である。それができるのは、イエス・キリストを信じて神の愛を知っているから、まことの平和を知っているからである。
- * 「キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、」(エペソ2:14~15) エペソの教会の信徒たちのなかで、ユダヤ人と異邦人が対立し、争っていた。その原因はユダヤ人が身につけている律法であった。キリストは、十字架にかかることによって隔ての壁を壊し、敵意を取り去られたのである。どんな人でもクリスチャンになれば、インターナショナル人(国際人)、いやユニヴァーサル人(宇宙人)である。国籍は天にあり、誰でも分け隔てなく愛し合うことができる。神の愛を行い、互いに愛し合う共同体が「神の家族」なのである。「こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。」(エペソ2:19)